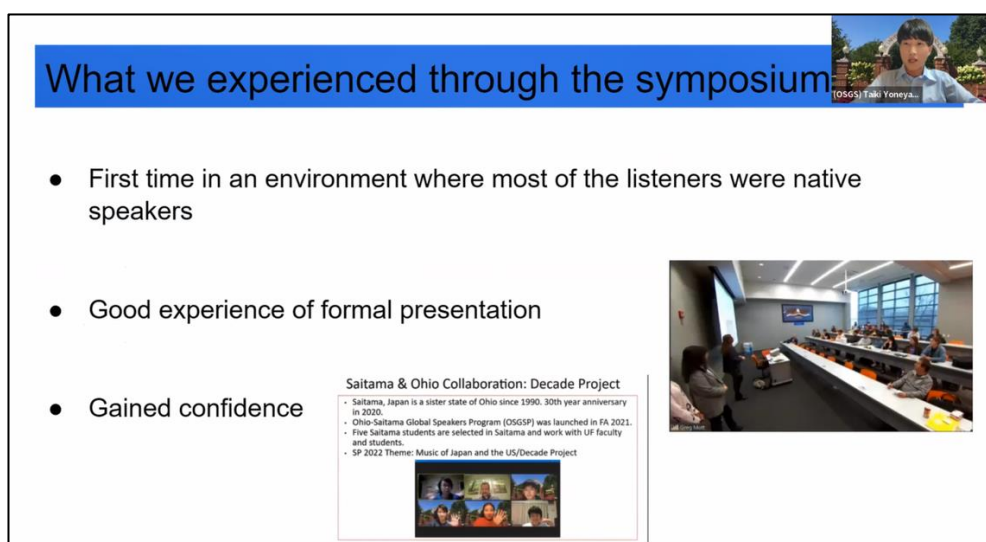


OSGSP の総括とそこで得た「つながり」

米山太樹

今、OSGSP を振り返ると約半年間の本プログラムが非常に早く終了したと感じる。英語の能力を磨きたい、埼玉県親善大使として埼玉県の魅力を発信したいという理由で始めた本プログラムであるが、いずれも達成することができた実感している。

まず、英語能力の面であるが、英語で発信する機会を多く与えられたことが功を奏し、英語でアウトプットすることに対する抵抗感がそれほどなくなったと感じている。当初はどうしてもネイティブの方に対して英語を話す際は、自分の英語が本当に正しいのかという点であったり、発音の面で何か問題はないかと様々なことを考えてしまい、自分で英語を話すことに対するハードルを上げてしまっていた。しかし、授業で教授からネイティブの人は実はそれほど気にしておらず、私たちは考えすぎているというお話を伺ってからは思い切りがつき、とにかく発信することが重要であると考えられるようになった。また、個人的にはシンポジウムで英語でのプレゼンテーションを経験することができたのが、英語の能力向上に非常に効果的であった。シンポジウムでは、大学の正式な発表会でネイティブの人々と共に発表することを経験できた上に、それが自分の自信に繋がり英語の勉強以上のものを得ることができたと確信している。



What we experienced through the symposium

- First time in an environment where most of the listeners were native speakers
- Good experience of formal presentation
- Gained confidence

Saitama & Ohio Collaboration: Decade Project

- Saitama, Japan is a sister state of Ohio since 1990. 30th year anniversary in 2020.
- Ohio-Saitama Global Speakers Program (OSGSP) was launched in FA 2021.
- Five Saitama students are selected in Saitama and work with UF faculty and students.
- SP 2022 Theme: Music of Japan and the US/Decade Project

(写真：最終発表会でシンポジウムについて紹介している様子)

次に、埼玉県親善大使の活動では、中間レポートで詳細に記述したように主にふじみの国際交流センター、埼玉県立歴史と民俗の博物館を訪問させていただいた。まず、ふじみの国際交流センターでは埼玉県で実際に行われている国際交流の場に身を置くことがで

き、地域がどのような形でグローバルな関わり合いを行っているのかを体験することができた。次に埼玉県立歴史と民俗の博物館では、藍染体験を行ったり、特設展では埼玉県における武道の歴史について学ぶことができ、埼玉県の歴史的な部分の知識を深めることができた。また、フィンドレー大学のペアとの一週間に一度の定例ミーティングでは頻りに埼玉県についての話をを行った。例えば、「トトロの森」などの埼玉県におけるアニメであったり、有名な物産、地名などについて詳細な説明をした。その際には、相手のフィンドレーについての話も聞き、年度毎に行われるイベントであったり、地域の主要な産業についての話をを行った。そして、埼玉県親善大使の活動の集大成である最終発表会では、埼玉県の方々にアメリカの大学の授業と日本の大学の授業の違いや、異文化交流の中で得られたものなどについての発表を行い、埼玉県親善大使としての活動を全うすることができたと感じている。



(写真：ふじみの国際交流センターでの様子)

次は題名にも書いたもう一つのテーマである、OSGSP を通じて得たつながりについての話をしたい。これは当初応募した際には得ることができるとは思っていなかったことであるが、プログラムで得たつながりは個人的に非常に価値のあるものであると感じている。まず、日本人側で得たつながりについて説明する。最初に言及すべきは共に半年間プログラムを行ってきた4人のメンバーである。メンバー内で年齢差があったため、当初はプログラムを進めていく上で支障が出てくるのではないかと危惧していたが、結果的には年齢差があったことが多様性を生み出し、もし同年齢のみの構成であったら見ることでできなかった景色を見ることができた。年齢が違うことにより、咄嗟に出てくる考えの違いであったり、物事を再考することに繋がったり、低年齢のメンバーの素朴な質問がそれを当たり前と思っていた私たちがアイデアを広げる助けになったこともあった。そのような経験を共にしてきた日本人メンバーのつながりは今後も続いていくであろうし、貴重なものであ

と感じている。次に、私は埼玉県国際課の方達とのつながりも素晴らしいものであると感じている。プログラム中に何度も助けてもらったり、アイデアをもらったりと非常にお世話になった。普段関わり合いがあまりなさそうな運営側と密なコミュニケーションをとることのできた体制は大変やりやすいもので、OSGSPを語る上で欠かせないものである。また、私たちはOSGSPの二期生ということで前回のプログラム参加者との関わり合いも持つことができた。プログラムの最初に一期生の方々とお話をする機会を得られたことはその後のプログラムを進めていく上で非常に助けになった。

次に、アメリカ側で得たつながりについて説明する。まず紹介したいのは半年間毎週一度ミーティングを行った私のペアである。今回のプログラムを通してのテーマである音楽について何時間も語り合ったり、お互いのバックグラウンドについて話したり、国の文化などについても紹介し合った。ペアが日本に対して非常に興味があったことから楽しく日本の物事を説明することができた。また、彼女自身日本語を勉強していたことから毎回のミーティングの最後には30分間日本語を話す時間をとり、お互いの言語能力を伸ばすことができた。私のペアを含め、他の日本人メンバーのペアも日本の大学に留学する予定があるので、彼らが日本に来た際にはぜひ実際に対面で会いたいと考えている。一方で、私たち日本人メンバーもプログラムの一環としてフィンドレー大学を訪れる機会があるかもしれないので、それがもし叶った際には大学でペアと会ってみたい。アメリカ側の他のつながりとしては、主に授業で大変お世話になった川村先生とモット先生である。川村先生はプログラムの最初期から関わり合いを持ち、様々なお話をした。モット先生は毎回の授業で濃密で学びのある授業を提供してくださった。以上に挙げた、日本側とアメリカ側とのつながりは具体的には川村先生が主催してくださっている定期的なミーティングで今後も会うことができる。このミーティングはフォーマルなものではなく、今までOSGSPに関わってきた関係者が参加対象であり、ざっくばらんに話を行い、交流することを目的としている。



(写真：授業最終回の様子)

最後に、本プログラムを終了した今の感想を述べたいと思う。英語の能力を磨きたい、埼玉県親善大使として埼玉県の魅力を発信したいという当初の目的は個人的に達成することができ、大イベントであるシンポジウム・最終発表会も共に成功して終えることができた。よって、私にとって OSGSP で思い残すことはもう無く、満足している。今後のプログラムとの関わり合いとしては先に挙げた定期的なミーティングや、日本やフィンドレーでアメリカのペアと会うことなどがあり、非常に楽しみである。本レポートの結びに、OSGSP の関係者全員に感謝の意を示して、終わりとしたい。



(写真：修了式の様子)